

令和 8 年度 全国国立大学放射線技師会・全国国立病院療養所放射線 技師会合同会議議事録

日時：令和 8 年 8 月 21 日（金） 18：00～19：10

開催方式：対面開催 東京大学医学部附属病院 臨床研究棟 A 1 階 会議室 1

参加者：

全国国立大学放射線技師会

会長 金沢勉 副会長 林利廣 小泉幸司 監事 大元謙二

相談役 岩永秀幸 学術 木藤善浩 人材育成 門田敏秀 飯森隆志

広報 小池正紘 業務調査 立石敏樹 医療安全 吉田幸人

医療放射線管理 林利廣（兼務）大学間交流 堤貴紀 会計 平野雄二

事務局長 加藤誠二 庶務 今江禄一 坂田健太郎 広報 遠藤和樹

業務調査 松田佳奈子 会計 竹中重治 編集 羽田紘人 岡野由香里 佐藤良

全国国立病院療養所放射線技師会

会長 田村正樹 副会長 川崎博司 阪本佳代 梶原宏則 事務局長 持木和哉

事務局次長 金子貴之 総務 齋藤郁里 山崎大輔 高橋善一

情報 草間緑 栗原協子 苫米地修平 学術 篠崎雅史

編集 篠崎雅史（兼務） 太田博之 藤木尚 藤井めぐみ 会計 小板橋佑介

（敬称略）

加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）

お集まりいただきましたので、少し早めですが始めさせていただきます。この後は合同懇親会も控えておりますので、充実したお時間となりますよう、スムーズに進行してまいりたいと存じます。それでは、ただいまより『令和 8 年度 全国国立大学放射線技師会・全国国立病院療養所放射線技師会 合同会議』を開催いたします。本日の司会を担当いたします、全国国立大学放射線技師会事務局の加藤でございます。本日は大変御暑い中、多くの皆様にご参加いただきまして誠にありがとうございます。それでは、開催にあたりまして、全国国立大学放射線技師会の林副会長よりご挨拶を申し上げます。林副会長、よろしくお願いいたします。

林（国立大学放射線技師会副会長）

皆様、本日はようこそお越しくださいました。合同会議としては、2 月に開催された医療安全セミナー以来、半年ぶりにお会いできて非常に嬉しく思っております。さて、今年は、7 月に

熊本で大きな地震がございました。また、先週の8月13日には千葉エリアで記録的な豪雨水害がございました。国立病院療養所機構の皆様のところでも、被災された施設等があったのではないのでしょうか。当技師会におきましては、千葉大学が大変な被害を受けました。地下の排水設備が完全に水没してしまい、本日出席予定でありました飯森技師長が現地で緊急対応にあたっております。そのため、飯森技師長は急遽、本日の合同会議を欠席せざるを得ない状況となっております。例年ですと、活動報告と、19回目を迎える医療安全セミナーの企画内容が中心の議題となりますが、本日はそうした災害時の対応や、各地区における被災状況の共有、他大学・施設の現状なども含めてご報告いただければと思っております。1時間という短い会議ではございますが、実りある有意義な会となるよう、どうぞよろしくお願いいたします。

加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）

林副会長、ありがとうございました。続きまして、双方の会長よりご挨拶をいただきます。はじめに、全国国立大学放射線技師会の金沢会長よりご挨拶をいただきます。金沢会長、よろしくお願いいたします。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

全国国立大学放射線技師会（ARTNU）会長の金沢です。本日は御暑い中、お越しいただきまして本当にありがとうございます。当会として、全国国立病院療養所放射線技師会様との合同会議は非常に重要であり、また有用な機会であると考えております。両会には、共通する問題もあれば、逆に全く共通しない異なる問題もあるかと思います。本日はお互いの情報を積極的に共有し、日頃の会運営の参考にさせていただければと思います。短い間ですが、この後の懇親会も含め有意義な時間となればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）

金沢会長、ありがとうございました。続きまして、全国国立病院療養所放射線技師会の田村会長よりご挨拶をいただきます。田村会長、よろしくお願いいたします。

田村（国立病院療養所放射線技師会会長）

全国国立病院療養所放射線技師会（NHORT）会長の田村です。私たちの会におきましても、本合同会議を非常に重要視しております。金沢会長とは以前から様々な場でお話しさせていただいておりますが、前回の医療安全セミナーでの議論における読影などへのアプローチや、物の捉え方、考え方に両会の大きな違いを感じました。同じ診療放射線技師ではありますが、大学病院様は教育機関を抱えられているため、私たちのイメージとしては『非常に高度で、先進的な立ち位置にいらっしゃる』と感じております。しかし、単にレベルの上下を議論するのではなく、それぞれの組織の特性、立ち位置、ものの見方の違いを認識し、お互いの強みを学び取ることが大変重要です。いろんな立場の診療放射線技師がいる中で、お互いが進歩し発展していくためには多角的な視野から着眼点を持ってくる必要があり、その点において本会議は

極めて有用であると感じております。今後もぜひ意見交換と情報共有を継続し、共に歩んでまいりたいと思っております。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）

田村会長、ありがとうございました。それでは議題の1、『活動報告』に移らせていただきます。はじめに、全国国立大学放射線技師会よりご報告をいただきます。金沢会長、よろしくお願いいたします。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

それでは、全国国立大学放射線技師会（ARTNU）の活動報告をさせていただきます。お手元の資料および今年3月に発行いたしました会誌『Vol.70 No.1』を元に、要点を抜粋してお話しさせていただきます。まず役員の人事についてです。今年度の4月17日に開催されました第69回定期総会におきまして、私、金沢が2期目の会長として承認をいただきました。役員も入れ代わりしましたが、今期におきまして、副会長が1名新しく交代いたしました。前学術委員長であられました京都大学の小泉先生に新しく副会長へ入っていただいております。小泉副会長より一言ご挨拶をいただきます。

小泉（国立大学放射線技師会副会長）

今期より副会長を拝命いたしました京都大学の小泉です。両会がこのような直接顔を合わせて、様々な現場の課題や活動内容について情報共有できる場は極めて重要であると考えております。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

ありがとうございます。また、監事には小味先生が入られ、相談役（私のお目付け役）として、前副会長の岩永先生に引き続きサポートをいただいております。その他の人事といたしましては、信州大学の木藤先生に新しく学術委員長をお願いし、金沢大学の高田先生に学術の委員、本日欠席の飯森先生（千葉大）に人材育成の委員、山口大学の小池先生に広報の委員長、名古屋大学の堤先生に大学間交流の委員長として入っていただいております。また、委員として坂田先生、佐藤先生、羽田先生がそれぞれ新しく加わっております。役員の詳細につきましては11ページを、委員会構成の詳細については12ページをご参照ください。昨年度の事業報告の全体（資料5ページ）につきましてお話しします。昨年度（令和7年度）は新体制の2年目として、会運営の安定化と質向上に注力いたしました。効率的かつ持続可能な組織運営のため、前年度より着手した事業見直しを具体化させました。具体的な見直しの成果として、まず利用率が低下し管理費が上昇していた『スキルモラルクラウド』の利用を終了いたしました。さらに、会誌の紙媒体での発行を取りやめ、デジタル（PDF発行）への移行を完了いたしました。ホームページを通じ、会誌のみならず、年5回開催される役員会の議事録についても適宜公開し、より迅速で透明性の高い運営に努めております。その他の事業活動としては、島根大学を当番校としたオータムセミナーの対面開催、学術委員会による各サミット班活動や

滋賀医大でのサミット研修会のハイブリッド開催、人材育成による新任技師長研修会（対面）および新人診療放射線技師研修会（Web）、医療安全セミナーの共催などを行いました。大学間短期交流研修につきましては34件の派遣実績がございました。省庁への出向も継続しております。業務調査委員会では集計データを国立大学病院データベースセンターへ提出いたしました。医療放射線管理委員会では医療機器データベースを構築・完了し、各大学の技師長に活用いただいております。それでは、各委員会より個別の実績を報告させていただきます。はじめに学術委員会の木藤先生、お願いいたします。

木藤（国立大学放射線技師会学術委員長）

今年度より学術委員長を拝命いたしました信州大学の木藤です。どうぞよろしくお願いいたします。昨年度の学術報告をさせていただきます。学術委員会の事業は、大きく『学術サミットの班活動』と『2つの大きな催事（サミット研修会、オータムセミナー）』に分かれます。まず、学術サミットには6つの班（一般撮影班、血管撮影班、CT班、MRI班、核医学班、放射線治療班）がございます。昨年度の主な実績としては、以下の通りです。血管撮影班におきましては、『時間内外の治療点検および夜間の血管撮影体制』に関するアンケート調査を実施し、現在データをまとめている段階です。MRI班におきましては、昨今極めて重要視されている『MRI検査における院内安全教育』に関するアンケート調査を実施いたしました。各大学での安全教育の実態を広く集計し、結果をホームページで共有しております。放射線治療班におきましては、『治療計画CTおよび位置決めCTにおける被ばく線量の調査』ならびに『放射線治療に関する国立大学の現状と運用方法に関するアンケート』という大規模な集計事業を行い、多くの有益なデータを報告いたしました。また、核医学班におきましては、学術サミット班の多施設共同研究の成果が学術論文として国際誌にアクセプトされるという実績もございました。次に、大きな2つの催事についてご報告します。1つ目は『第8回学術サミット研修会』です。1月31日に滋賀医科大学を配信拠点としてWebハイブリッド形式で開催いたしました。今回はMRI班と核医学班が企画を担当し、MRI班は「AI時代のMR検査－メーカー横断で探る特徴と課題－」、核医学班は「核医学のいまから未来へ：診断と治療のために我々がすべきこと」をテーマに発表と活発な討論を行い、合計148名にご参加いただきました。2つ目は『第29回オータムセミナー』です。昨年の12月5・6日の2日間、島根大学にて開催いたしました。テーマは「大学病院のミッションについて考える」とし、39大学から70名にご参加いただき、チーム医療や経営課題について多角的なアプローチを行い、大変有意義なセミナーとなりました。学術報告からは以上です。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

ありがとうございました。続きまして、人材育成報告について、門田先生お願いいたします。

門田（国立大学放射線技師会人材育成委員長）

人材育成委員を務めております香川大学の門田です。よろしくお願いいたします。昨年度の人材育成の活動実績を報告させていただきます。主な事業は『新任診療放射線技師長研修会』と『新人診療放射線技師 Web 研修会』の2つでございます。まず『新任診療放射線技師長研修会』についてです。昨年の7月3・4日の2日間にわたり、信州大学にて新任技師長5名を対象に対面形式で開催いたしました。新任技師長に必要な人事・設備・財務マネジメントの基礎講義、およびディスカッションを行いました。病院長会議の塩崎英司先生等にもご登壇いただき、病院経営に関する講義や、CVPシミュレータを用いたMRI装置増設の財務戦略を検討するグループワークを実践いたしました。次に『新人診療放射線技師 Web 研修会』についてです。7月18日の金曜日に終日 Web 開催し、101名が参加いたしました（プログラム等は16・17ページ）。本研修では、新人の皆様に向けて、金沢会長による「国立大学病院技師としての役割と心構え」の講話に始まり、学術、医療安全（吉田先生によるリスクファクター解説）の各講義を行いました。また、毎年非常に反響が大きい企画として、経験3年、10年、12年の先輩技師による『先輩の活動からキャリアデザインを学ぶ』の講演とディスカッションを行いました。新任の方々がキャリアの将来像を描き、前向きに業務に臨む熱い熱意を持っていただけるように、非常に密度の濃い内容となっております。Web越しでも、新人の皆様が大変熱心に画面に聞き入り、ニコニコしながらメモを取るなど、非常に好評を博しております。さらに、本研修の最大の特徴であるのが、coccole 代表の岡本智子先生による『よりよいコミュニケーションがもたらすものとは』の講習です。Zoom のブレイクアウトルーム機能をフル活用し、同期として他施設の技師と積極的なコミュニケーションをとり、コーチング等の対話手法を体験いただきました。アンケートでも、他施設の同期と悩みや経験を共有できて大きな刺激になった、今後も継続的な交流機会がほしいと、非常に高い満足度が寄せられています。今後もこの2つの事業を柱として精力的に取り組んでまいります。以上です。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

ありがとうございました。続きまして、広報について、小池先生お願いいたします。

小池（国立大学放射線技師会理事）

本年度より広報委員長を務めております山口大学の小池です。広報の活動報告をさせていただきます。広報といたしましては、主にホームページ（ARTNU）の管理・アップデートを行っております。活動目的は『会員外への積極的な情報発信』と『会員に向けた有益な情報提供』の2点です。会員向けには、先ほど会長からお話がありました通り、紙媒体からデジタル（電子会誌）への完全移行を行い、閲覧セキュリティ向上のため、会員IDとパスワードの刷新を行いました。会員外向けには、最も閲覧率が高い『求人・リクルート情報』の適宜更新や、一般ページへの『各大学の施設・病院紹介』の追加掲載を随時行っております。各施設からご協力いただき、それぞれの病院の特徴をビジュアルやメッセージとして発信し、国立大学全体の魅力をアピールしております。どのようにすれば情報が正しく伝わり、魅力的になるかを分析しながら、引き続き活動してまいります。以上です。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

ありがとうございました。続きまして、業務調査についてですが、立石委員長が新幹線による移動中のため、私よりご報告させていただきます。業務量調査委員会では、例年通り、会員施設の業務量および雇用形態の実態調査を行いました。昨年度は令和 6 年度実績の調査を集計しております。雇用形態調査の結果といたしまして、2025 年度（令和 7 年度）の合計技師数は 2112 名であり、2024 年度の 2085 名から 27 名（1.3%）増加しております。男女別は男性 1534 名（72.6%）、女性 578 名（27.4%）であり、女性の比率は例年緩やかに増加しております。これらの集計データは国立大学病院データベースセンターに提出され、客観的データに基づく適正な組織運営や人員配置のための重要な検討材料として活用されております。業務調査からは以上となります。続きまして、医療安全について、吉田先生、お願いいたします。

吉田（国立大学放射線技師会理事）

医療安全を担当しております大分大学の吉田です。医療安全の活動報告をさせていただきます。当委員会は、資料の通り年間を通じて非常に精力的に活動を行っております。まず、当委員会の構成員全員が、全国の放射線部長と技師長が集まる『全国国立大学放射線診療部門会議』の医療安全委員会（特別委員会）に参画し、私が副委員長を務めております。同委員会では実施しているアンケート調査の企画・審議・分析が主な活動です。アンケートにおきましては、一昨年度の『画像診断レポートの未読問題』の対策状況に始まり、今年度は『転倒・転落防止、チューブ・カテーテル類のご抜去防止』『タスクシフト・シェアへの対応』『外国人患者への対応状況』について、各大学から回答を集計し共有いたしました。また、各施設から収集したインシデント事例の中から、特に重大な『レベル 3A 以上』の事例をすべて集計し、具体的な状況と対策をまとめて各大学に広報するという、直接的に安全を促す活動を行っております。さらに、2 月 21 日には『第 18 回 診療放射線技師 医療安全セミナー』を東京科学大学を会場に、Web 開催（Zoom）いたしました。当日は、ARTNU 側から 111 名、NHORT 側から 108 名、合計 219 名（資料上は合計 221 名、NHORT：109 名、ARTNU：112 名と整合しております）の多くの参加をいただきました。ご協力に感謝申し上げます。今年度もセミナーに向け精一杯取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。以上です。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

ありがとうございました。続いて、医療放射線管理委員会についての報告を、私より代理にて行います。当委員会におきましては、昨年度、『第 3 回 医療法施行規則改正における対応状況』についてのアンケート調査報告』をまとめ、提言を診療部門会議に発信いたしました。また、非常に大規模な事業成果といたしまして、各大学が保有する『放射線関連装置・機器リスト』の作成およびデータベース化を完了いたしました。これは、全大学の保有する全装置を Google スプレッドシートによりリスト化し、メーカー名や装置種類ごとに簡単に検索・共有できるようにしたものです。非常に壮大で困難な計画でしたが、東京大学のメンバーの多大なるご協力、および九州大学の加藤先生のご尽力により完成し、現在はホームページ上で加盟技

師長が自由に検索・活用できるようになっております。現在はこれをベースとして、リモートメンテナンス等の契約仕様の調査や、それらがネットワークにどのように接続されているかの把握、つまりサイバーセキュリティ対策を踏まえた調査検討を行っております。最後に、大学間交流調整委員会について、堤先生お願いいたします。

堤（国立大学放射線技師会理事）

大学間交流を担当しております名古屋大学の堤です。大学間交流の活動報告をさせていただきます。当委員会では、他施設の業務内容や新しく更新された装置の運用方法を習得し、大学の人的ネットワークを構築するため、1日から数日程度の『大学間短期交流研修』の推進・管理を行っております。全国を5ブロックに分けてそれぞれに管理校を配置し、適宜ブロック会議を開催して課題の洗い出し等を行っております。令和7年度におきましては、34件の短期交流研修が実施されました。近年、住居制度等の複雑化により中長期的な人事交流が難航する傾向にある中、この2泊3日程度の短期研修は非常に有効で活発な意見交換の場となっております。以上です。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

ありがとうございます。最後に私より、本会の財務と会員数について補足させていただきます。令和8年度におきましては、本会の年会費は1人3000円（コロナ前の5000円から減額）として、徹底した経費節減（会誌の電子化等）を行いながら運営しております。今年度の会員確定数は1885名となりました。全施設の総技師数2112名に対し、組織率は約89%となっており、近年、非常に高い組織率を維持、また緩やかに上昇傾向にあります。今後も効率的で透明性の高い、会員にとって真に有益な運営に努めてまいります。以上をもちまして、全国国立大学放射線技師会（ARTNU）の報告を終わります。ありがとうございました。

加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）

金沢会長、詳細なご報告をありがとうございました。続きまして、全国国立病院療養所放射線技師会の田村会長より、会務および活動のご報告をいただきます。田村会長、よろしくお願いいたします。

田村（国立病院療養所放射線技師会会長）

金沢会長、ありがとうございました。毎年、大学病院様の詳細で先進的な活動を拝聴いたしますと、私たちの会でも更なる活動強化やデジタル化の促進が必要であると大変刺激を受けます。さて、昨年度の秋に開催されました総会をもちまして、武田前会長がご勇退され、私、田村が新会長としてそのバトンを引き継がさせていただきました。今回は新執行部として初めての会議となります。スライド資料を用意いたしましたので、これに沿って、自己紹介と本会の現状、そして本日特に共有したい『千葉豪雨災害』および『本年度の3つの主要プロジェクト』についてお話しさせていただきます。まず、私自身が現在技師長を務めております病院についてです。国立病院機構におきましても大変珍しい『一施設二病院』の体制をとっております。

建て替えが完了して綺麗な千葉病院と、元々は結核療養所であった古い千葉東病院が、経営効率化（スタッフ数削減等）のために実質的に統合された形です。千葉東病院は現在、脳神経内科、腎移植・生体腎肝同時移植などの高度医療、透析、そして核医学検査を大きな強みとしております。病院自体は非常に古いため、地域連携等での課題はございますが、日々取り組んでおります。国立病院の特徴として、『転勤（人事異動）』がございます。技師は生涯で7～8箇所、多い人では10箇所を超える転勤を経験します。私は少し変わっております、3つの病院しか行っていませんが、それぞれの病院を2回ずつ回るという異動を経験しております。一から人間関係を再構築するよりも、過去に行ったことのある病院へ再赴任の方が、職場の特性やルールを把握しているためスムーズに業務に入れるというメリットもあり、最近はこの異動事例も増えております。次に、本日特にスライドでお伝えしたかったのが、8月13日に千葉市周辺を襲った『千葉豪雨災害』のリアルな被災状況です（スライド写真・動画を説明）。24時間で360mmを超えるという猛烈な雨が発生し、蘇我駅前や千葉駅構内が激しく冠水、アンダーパスでは車が水没する事態となりました。私自身もその日に現場におり、ショッピングモールの冠水や停電（非常灯稼働）、駅での激しい雨漏りを目の当たりにいたしました。感染症（破傷風など）を警戒しつつも、やむを得ず靴と靴下を脱いで冠水した中を歩いて移動したリアルな体験は、災害がいかに身近であるか、そして技師会としても『災害対策』が喫緊の課題であることを改めて痛感させられました。

続きまして、本会の組織構成についてです。現在、全国約1940名の会員が所属しており、7つの地区技師会で構成されています。地区ごとの規模のばらつきが非常に大きく、関東甲信越が700名超で最大、近畿・中四国・九州が300名前後、東北が95名、北海道が69名です。転勤の範囲も、原則この地区会単位（東北・北海道は合同）で行われます。新執行部の役員体制は、副会長に川崎、阪本、梶原。事務局長に持木、事務局次長に小西です。小西は春より『日本DMAT事務局』へ出向しております。先月の熊本災害におきましても、発災直後から熊本県庁に詰め、技師の職域を超えて、被災病院への『支援物資や水の配分調整』のミッションに国土交通省、総務省、自衛隊、内閣府などとタフな交渉を行い、大活躍いたしました。小西は本会の役員・災害担当としても引き続き活動を継続します。主な委員会組織は、診療報酬対策（阪本副会長）、医療安全・感染対策（梶原副会長）、災害対策（小西）、法令改正対応（川崎副会長）、創立70周年記念誌編集（持木事務局長）を置いております。会務運営といたしましては、従来は経費削減のために完全Web形式で会議を行っていましたが、新体制へ移行し、複雑な会務の相互理解や、若手役員の横のつながりを強めるため、年度当初からは3ヶ月に1回、がんセンター中央病院にて対面形式の常任理事会・会議を再開し、ハイブリッドと併用して実施しております。5月の全国会長会では、JIRAの鍵谷様を招いた診療報酬改定勉強会に加え、今年度初の試みとして『日本赤十字社技師会』の副会長様をお招きいたしました。同じ大規模組織としての転勤制度や、装置一括共同購入、人手不足への対応など、お互いの組織ノウハウを共有する非常に素晴らしい勉強会を開催いたしました。その他、環境省のリスクコミュニケーション等の研究（3カ年）への協力も継続しております。それでは、本年

度から来年度にかけて、本会が全力で推進する『3つの重点プロジェクト（3本の柱）』についてご説明します。1つ目は、『会員情報システムの運用開始（1月稼働）』とそれに伴う『デジタル化・電子化』です。会員個人と本部が直接メールアドレス等でつながる環境を構築したことで、一斉メール配信や、各種申請（会費免除申請など）の完全電子化が可能となり、役員・地区会の負担が大幅に軽減されました。また、7月末に発行した会誌におきましても完全電子化（QRコード配信）を行い、効率的な情報伝達を実現いたしました。2つ目は、『複数地区で合同の勉強会等を開催するためのWebツール・Web PACS インフラの一括契約と提供』です。個々の地区会が高額なウェビナーシステムや画像配信 PACSなどを契約するのは財政的に大きな負担となるため、全国本部で一括契約し、各地区の活動へ提供する仕組みを作りました。予約管理や重複調整は、若手の理事メンバーが管理ツールを開発して主体的に運用してくれております。3つ目は、『「働きがい・働きやすさ」に関する共同アンケート調査の実施』です。国立大学様、私立大学様、および本会の3団体合同で、10月～11月頃を目途として、現場の働き方の実態調査を実施し、未来の『持続可能な働き方』への基礎資料とする予定でございます。最後になりますが、私たちの会は2027年に設立70周年を迎えることとなります。持木事務局長を中心に、巻頭言や各地区会活動、10年の歩みの写真集、災害対応の軌跡などを盛り込んだ記念誌の編纂を進めております。金沢会長には、ぜひお祝いのメッセージのご執筆をお願いしたく存じます。本会からの報告は以上です。

加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）

田村会長、ありがとうございました。両会からの活動報告につきまして、ご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

田村（国立病院療養所放射線技師会会長）

大学病院様が作成・管理されている『放射線関連装置・機器リスト』のデータベースは、非常に興味深く、素晴らしいシステムであると感じております。このデータは今後どのように運用されるのでしょうか。また、保守金額などの財務的な情報まで収集・網羅されているのでしょうか。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

もともとの作成の目的は、各大学が新しく装置を導入する際、どこの施設に見学へ行けばよいか、また同じ機種を導入している施設から使用感やトラブル対応などを聞くことができるように、という研修・見学先選定のためのデータベースとしてスタートいたしました。保守料金に関しては、各施設の交渉条件や契約内容、さらには複数年一括契約など非常に複雑に絡み合っているため、現段階では保守金額までの収集は行っておりません。現在は、各機器がどのようにネットワークに接続され、どのようなセキュリティ仕様になっているか、つまりサイバーセキュリティ対策や安全管理の確認にまで踏み込んだ調査検討に活用を進めております。メーカー側にとっても非常に価値の高いデータではありますが、一般への公開は一切行わず、加盟技

師長に限定して Google スプレッドシート等で安全に共有・活用しております。非常に有効なツールです。

田村（国立病院療養所放射線技師会会長）

活用価値が非常に高いですね。サイバーセキュリティやインターネット接続の無法地帯化は、各病院でも極めて緊急性の高い問題ですので、非常に面白く、また参考にさせていただきたい取り組みです。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

ありがとうございます。以前、当会の女性技師の割合（27.4%）についてお話しいたしましたが、国立病院様での比率や、学生の実習生の現状、また時短勤務などの現場環境はどのような状況でしょうか。

持木（国立病院療養所放射線技師会事務局長）

当会（NHORT）の会員データにおきましても、男性 70.3%、女性 29.7%となっており、全体の割合としてはここ数年ほぼ同水準を推移しております。ただ、年齢配分を見ますと、やはり若い世代においては女性の比率が約半数近くまで増加しており、ベテラン層に男性が多いため全体の比率はこのようになっています。

田村（国立病院療養所放射線技師会会長）

そうですね、若い世代はほぼ 1 対 1 に近い感覚で入職しております。

小泉（国立大学放射線技師会副会長）

多いところでは 1 年生の男女比が 7 対 3 で女性が多いという養成校もあるようです。デフォルトで半数以上が女性であると養成校からも伺っております。就職の Web 説明会におきましても、あらかじめ年代別の男女比乖離（当時は男性が圧倒的に多かったこと）について説明をしておかないと、職場のギャップに驚いてしまう学生が多いため、その点は配慮するようにしています。

田村（国立病院療養所放射線技師会会長）

また、これに関連して現在非常に深刻化しているのが、復帰後の『育児短時間勤務（時短勤務）』の代替員確保の問題です。育児休業の取得推進、および休業期間中における代替員確保は環境整備や制度の理解が大きく進捗し、以前に比べ滞りなく対応が行える環境が整ってまいりました。しかし、復帰した後の『時短勤務（16 時以降不在）』の時短期間中における代替（定数外の非常勤の追加雇用）は、事務方や制度の枠組み（定数枠）の壁があり、なかなか認められないのが実態です。20 名程度の病院において、同時に 5～6 名の時短勤務が発生した場合、夕方から夜間の時間帯において極端に現場の稼働人数が不足し、残された日勤・当直メンバーの負担が極限に達するという状況が各所で起きております。大学病院様では何か対策や交渉等を行われておりますでしょうか。

小泉（国立大学放射線技師会副会長）

私の病院（京都大学）や東京大学様におきましても、全く同じ問題に直面しております。事務方には強く定数枠の交渉を行っておりますが、枠という壁が厚く、なかなか非常勤の代替追加までは認められないのが実態です。しかし、現場の疲弊を避けるためには、非常に重要な経営・雇用問題ですので、粘り強く交渉や制度改正への働きかけを続けていかなければならないと考えております。

田村（国立病院療養所放射線技師会会長）

やはりどこも同じですね。育休そのものが整備されてきたのは非常に喜ばしいことですが、その後の時短期間における代替確保は、現場の持続可能な働き方を守るための大きな課題であると痛感しております。ありがとうございました。

加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）

貴重なご意見をありがとうございました。それでは議題の2、『第19回診療放射線技師 医療安全セミナー』の開催について、全国国立病院療養所放射線技師会様、よろしくお願いいたします。

梶原（国立病院療養所放射線技師会副会長/医療安全）

医療安全を担当しております梶原です。今回の医療安全セミナーに関しましては、本会の担務として運営をさせていただきます。ARTNU側の吉田委員長とは、事前にメール等で調整をさせていただき、両会の三役の皆様のご了解をいただきましたので、この場で開催日程のアナウンスをさせていただきます。開催は令和9年2月27日(土)を予定しております。皆様におかれましては、ぜひ日程の確保をお願いいたします。また、構成にあたって1点、前回のセミナーを踏まえたご提案がございます。例年、文部科学省と厚生労働省の双方の先生に講演をお願いしておりましたが、今回は厚生労働省（久富先生など）の講演のみに絞り、文科省の講演は省略することを提案いたします。これにより、確保された時間を有効活用し、より中身の濃い討議の時間としたいと考えております。企画内容は現在精査中ですが、ARTNU側（吉田委員長等）にも講師選出などのご協力をいただくことになるかと思います。その際は、早めに趣旨や内容をご説明いたしますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。以上となります。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

承知いたしました。ぜひその方針で企画を進めてください。開催会場につきましては、例年通り『がん研究センター中央病院』にて、現地とWebのハイブリッド開催でよろしいでしょうか。

田村（国立病院療養所放射線技師会会長）

はい、がん研究センター中央病院で問題ございません。よろしくお願いいたします。

金沢（国立大学放射線技師会会長）

承知いたしました。**加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）**

その他、ご質問やご意見等はございますでしょうか。それでは議題の3、『その他』に移ります。何かございますでしょうか。**金沢（国立大学放射線技師会会長）**

ARTNU 側は特にございません。

田村（国立病院療養所放射線技師会会長）

当会もございません。大丈夫です。

加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）

ありがとうございました。以上をもちまして、本日予定しておりました議題はすべて終了いたしました。閉会にあたりまして、全国国立大学放射線技師会の小泉副会長よりご挨拶をいただきます。小泉副会長、よろしくお願いいたします。

小泉（国立大学放射線技師会副会長）

皆様、本日はお疲れ様でした。今回の合同会議におきましても、非常に有用な意見交換ができました。これから開催される合同懇親会におきましても、さらに深く意見交換をさせていただければと思っております。田村会長からは、千葉エリアの豪雨災害のリアルな状況を写真や動画を交えてご共有いただき、同じ国内にありながらその凄まじさを目の当たりにすることができました。誠にありがとうございました。また、後半のディスカッションにおきましても、若い世代における男女比の推移や、育休・時短勤務復帰後の雇用体制の課題など、大学病院・国立病院という組織の垣根を超えて共通する、非常に重要かつ現場が抱える本質的な課題について共通認識を持つことができました。このような議論を重ね、両会が協力体制を維持していくことは、大きな意義があると感じております。本日は大変暑い中、お集まりいただきまして誠にありがとうございました。本日はどうもありがとうございました。

加藤（司会 国立大学放射線技師会事務局長）

小泉副会長、ありがとうございました。以上をもちまして、令和8年度全国国立大学放射線技師会・全国国立病院療養所放射線技師会合同会議を終了とさせていただきます。誠にありがとうございました。

全員

（拍手、お疲れ様でした）